

古事記読書会

「弥栄(いやさか)の会」

2020年度第8、9回報告書

■開催日：第8回：2020年11月28日(土)

9：30～11：30

第9回：2021年1月23日(土)

9：30～11：30

■開催場所：Zoomにて開催

■参加者：

第8回：6名(正会員6名)

第9回：6名(正会員6名)

■内容：

(1) 参加者自己紹介

(2) 朗読

阿部國治著・栗山要編「第五集 勝佐備(かちさび)」第五～八章を、Zoomを用いて全員で順番に輪読

(3) 読後感

○須佐之男命が「あめのやすかは(天安河)」を見ることが出来た、ということは、自らの使命の尊さに気付いた、ということではないか。国・村・家の安河、という概念が出てきたが、仕事においても安河(本質のようなもの)を見出すことが重要だと感じた

○日常の仕事が忙しく、怒られたり悩んだり、迷うことがあったが、怒られないようにとか嫌われないようにということではなく、「何のために仕事をしているのか」という本質に戻れた気がする

○本質である安河の中の「あめのまなる(真名居)」は本質中の本質、信条を示すのだと思う。そこにおいて、自分の受持ちが無上の楽しい仕事であることがわかる、というところに尊さを感じた。仕事の本質を知れば安心だ、というところに繋がった

○「い」「は命」、「ひ」は日、というひとつひとつの文字に意味があることが新鮮であった

○「川は動かないが水が動く」という表現が、言い得て妙であり新たな概念を得た

○生太刀…殺太刀、真名…仮名、和(にぎ)御霊…荒(あら)御霊、といった対の言葉が幾つか出てきて、

ものの実態と、形さえ整えばよいということの対であり後者では本質的な仕事は出来ない、と感じた
○「八」⇨普遍・全体・妥当、「五」⇨有限性、というように、数の意味だけではないというところが面白かった

○コロナで「禍」という言葉をよく使うが、ここにも出てきて「災い」の意味だと良く理解できた

○前回輪読で「八尺(やさか)の勾玉(まがたま)の五百津(いほつ)の美須麻流(みすまる)の珠(たま)」を何度も繰り返し返す箇所が当たったが、この間ラッキーなことが沢山あり、このお陰かもしれないと今日感じた。パワーワードなのかも

■次回予定：

2021年2月27日(土)9：30～11：30

※次回もZoomにより「勝佐備」の続きを味わう予定

■参加申込方法：

開催日前日正午までに、下記必要事項を記入の上、メールにてお申し込みください。

【必要事項】所属支部、氏名、緊急連絡先(携帯)

【申込先】(担当：小林)

reading-circle@womencivilengineers.com

以上



Zoomでの開催の様子(第8回)